

みやぎ生協 福祉活動助成金 助成活動報告書

団体名	特定非営利活動法人 全国要約筆記問題研究会 宮城県支部	
代表者名	支部長 福元 智美	
連絡先 福元 智美 TEL : 022-290-7159 FAX : 022-290-7159	E-mail ZAP05603@nifty.ne.jp	

1、助成事業報告

助成を受けた事業名	要約筆記者も覚えておきたい手話講座
事業の目的	要約筆記の活動の際、手話を日常的に使用するろう者と接する機会も多い。通訳時はもちろん、打合せの際にろう者と手話を交えてコミュニケーションをとることができる。要約筆記による通訳活動も円滑に進めることができる。 また、参加者に手話に接する場を提供することで、言語としての手話への興味・関心をさらに深めてもらえることも期待する。
事業の具体的内容	日時：2023 年 12 月 17 日（日）10 時～12 時 会場：仙台市シルバーセンター 6 階和室 参加者数：14 名（うち非会員 6 名） 宮城県手話通訳者養成講座で講師として指導にあたっているろう者を講師に招き、聴覚障害者と簡単にコミュニケーションをとるために必要となる手話表現を学ぶ。
活動の開始から完了までの流れ	・手話文法、指文字、日常よく使われる手話表現を学ぶ。（挨拶、季節、数字、色、時間、名前、疑問文等まで） ・自己紹介でよく使われる表現方法を学ぶ。 ・手話を使っての会話に挑戦する。（2 人 1 組となり、手話を読み取ること、表現することを交代しながらチャレンジする） ・質疑応答。 ・アンケート記入。

活動の成果と教訓	【成果：手話の学びが深まった】 ・よく使われる手話表現が学べた。 良く見かける手話の意味や表現の仕方が分かった。 単語表現と表情の出し方によって、コミュニケーションが取りやすくなる。 実際に読み取りしたり、表現することで具体的に伝わりやすい手話が学べた。 ・盛りだくさんの内容だったが、講師の慣れた進行に引き込まれ、楽しく学べ、あっという間に終了時間になった。 ・手話をやってみることに慣れることが上達の秘訣と思った。 【教訓：広報の方法について】 ・広報開始が遅くなったこと、また開催日程が年末と忙しい時期ということもあり、参加者数が振るわなかった。 →広報の準備を早めに進める。開催時期を早めに設定する。
今後の展望など	・手話講座を第2弾、第3弾と継続したい。 手話を学ぶことで聴覚障害者との意思疎通がスムーズに進み、要約筆記による通訳にもよい影響をもたらすことを期待する。

2、助成金使途報告書

■ 収入の部

確保した資金内容	金額（円）	備考
福祉活動助成金	30,500	
自己資金	3,000	研修会参加 資料代
合計	33,500	

■ 支出の部

費目	内容	予算額（円）	実支出額
講師謝金	講師 謝礼（交通費込み）	18000	18,000
講師への通訳料金	手話通訳料（交通費込み）	8,500	7,610
資料印刷代	コピー代	5,000	900
スタッフ交通費	スタッフ 交通費	4,000	3,000 ※スタッフ1名欠席
合計		35,500	29,510

*資料印刷代⇒白黒コピーにしたため予算に比べ減額となった。

*助成金 30,500 円－実支出 29,510 円＝残金 990 円は返金

*用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

3、送付必要書類

① 福祉活動助成金 助成活動報告書

プリントアウトしたものを1部郵送、データもメールでお送りください。

② 領収書のコピー（郵送）

③ 成果物（活動の様子がわかる写真、または事業で作成したものを郵送）

*写真は郵送とメールで送ってください。



本研修会は、みやぎ生協福祉活動助成金によるご支援をいただいています

令和5年度 全国要約筆記問題研究会宮城県支部研修会

要約筆記者も覚えておきたい

手話講座



要約筆記の通訳の場で、利用者や主催者と手話でコミュニケーションが取りたいなあ…と思うことはありませんか？

宮城県手話通訳者養成講座で講師を務める中村敏子さんを講師にお迎えし、要約筆記者も覚えておきたい手話表現を教えてください。

12月17日(日)
10:00~12:00

定員 30 名

12/14(木)〆切

先着順受付

仙台市シルバーセンター 6階和室

参加費 全要研会員無料・非会員 500 円

申込み先：全要研宮城県支部 福元智美

メール：ZAP05603@nifty.ne.jp

アンケート

1. 今日の研修会についてどのような印象を持ちましたか？
2. 研修時間はどうでしたか？
3. 研修内容は今後にも活かせると思いますか？
4. 今後の研修会でやってほしいことや開催時期の希望はありますか？

ご協力をありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

宮城県支部「要約筆記者も覚えておきたい手話講座」 ～助成金で支部研修会を開催～

宮城県支部 支部長 福元 智美

今年度、全要研宮城県支部では、助成金を獲得し支部研修会を開催しました。その経緯と今後の展望などをお話します。

宮城県支部の状況

宮城県支部の正会員数は 2023 年 12 月現在で 13 名。2022 年度までの主な活動としては、要約筆記者登録試験を受験される方に学習の場を提供するための学習会を年 2 回、難聴協会の理事会の記録作成、要約筆記者養成講座の開講式・閉講式への来賓出席、その他宮城県聴覚障害者情報センターが実施する要約筆記関連事業への協力などです。

以前は外部から講師をお招きして福祉関係の学びの場を作ったり、会員同士で情報保障を行い難聴協会の会員も参加できる研修会を開催したりしていました。しかし、現在の会員数では会計的に余裕がありません。会員数が少ないなかで支部活動に対する負担感が増大し、悩みの種になっています。そこにコロナ禍も相まって、新しい企画立案には積極的になれないままでした。

支部研修会を開催したい！

一方で、宮城県聴覚障害者情報センターが宮城県と交渉を重ね、隔年開講となっていた要約筆記者養成講座が 2020 年度からは毎年開講となりました。さらに宮城県支部の学習会の取り組みが地域の要約筆記団体にも波及し、要約筆記者養成講座の受講生の学習の場を積極的に作ろう、みん

なで要約筆記者を育てようという機運が高まりました。これらが功を奏し、ここ数年、宮城県では要約筆記者登録試験の合格者が全国平均を上回る比率で増加しています。

これを良い機会ととらえ、なんとか支部会員を増やすことができないか、支部会員が所属するメリットを感じることが出来る企画が何かできないかと考えました。そこで、2023 年度は助成金を申請し、支部研修会を復活させることを活動目標に掲げました。

本研修会は、みやぎ生活福祉活動助成金によるご支援をいただいています

令和 5 年度 全国要約筆記問題研究会宮城県支部研修会

要約筆記者も覚えておきたい 手話講座



要約筆記の過程の中で、利用者と主催者と手話でコミュニケーションが取りたいなあと思うことはありませんか？

宮城県手話通訳者養成講座で講師を務める [] さんを講師にお迎えし、要約筆記者も覚えておきたい手話表現を教えてください。

12月17日(日)
10:00~12:00

定員 30 名
12/14(木)まで
先着順受付

仙台市シルバーセンター 6 階和室

参加費 全要研会員無料・非会員 500 円
申込み先: 全要研宮城県支部 福元智美
メール: []

支部研修会のチラシ

助成金申請から獲得まで

地域の派遣では手話通訳者とともに活動する機会も多く、要約筆記者からは「手話を学びたい」という声が多く聞かれました。幸い、地域の手話奉仕員養成講座や手話通訳者養成講座で講師を務めている職場（宮城県聴覚障害者情報センター）の同僚のろう者に講師を依頼することができ、研修会のテーマ自体はすぐに決まりました。

助成金を申請するとなると、もちろんそれで終わりではありません。「助成金が獲得できれば正式に手話通訳を依頼する」という条件で派遣事業体に手話通訳者派遣の見積り作成を依頼。その見積書を添付し、締切日ぎりぎりに助成機関に申請書を提出しました。

その後、助成機関の担当者と申請内容に関して電話やメールで何度もやり取りを行い、なんとか無事助成金をいただけることになりました。担当者からの「仮に助成金を獲得できない場合でも、何らか代替手段を考え事業を遂行するという姿勢を見せてほしい」「事業は複数回継続して行い、世の中に役立つものにしてほしい」という言葉が印象に残りました。事業実施のための資金を助成していただくこの意味を再確認し、身の引き締まる思いがしました。

「要約筆記者も覚えておきたい手話講座」の開催

支部研修会は講師や、関係団体の行事等をすり合わせた結果、12 月中旬の開催となりました。講師には研修会のために丁寧な資料を準備していただきました。手話通訳者の読み取り通訳に頼らず、ろう者の手話を見て真似る、手だけでなく眉や目、首の動きや表情、体全体を使って表現するこ

とを重視した内容で進められました。手話文法、指文字、名前、時間、数字、日にち、年齢、単語表現と表情の出し方、疑問文の表現の方法など、手話のエッセンスといえる盛りだくさんの内容をテンポよく教えていただきました。参加者からは「講師の素晴らしい手話表現に惹き込まれた」「手話講座をぜひとも継続してほしい」という声が聞かれました。参加者にとって満足度の高い研修会となったことに、胸をなでおろしました。

反省点と今後の展望

今年度は助成金の獲得自体が見通せないところからスタートしたこともあり、会場の確保、日程調整、周知に至るまでのスケジュールがぎりぎりになり、準備に関わってくれた支部会員には大変な迷惑をかけてしまいました。そのことから、想定していた定員を集めることができなかったことが反省点となります。

助成機関からは「事業を継続させてほしい。来年度もぜひ助成金を申請してください」という言葉を頂きました。来年度は早い時期から綿密に準備を進め、多くの支部会員と企画段階から一緒に取り組める支部研修会にしていきたいです。



手話を学びたいという要約筆記者の声に応えた。
(写真提供：宮城県支部)